淺　間　高　原　の　ク　モ

岡　崎　常　太　郎

ここに言ふ淺間高原とは，淺間山を中心として，東は碓氷峠から霧積，西は追分原，南は南輕井澤，北は北輕井澤をふくむ地域を指すのである。この地域は活火山をひかへ，輕井澤一たいの高原をふくむ理想的の避暑地であるが，ことに箱根土地株式會社が千ケ瀧の避暑地を開いてからこの方，一夏をこの地に過ごして，元氣を養ふミヤコの人が，年と共に盛んになりつつある。これは誠に結構なことではあるが，殘念なことには，折角チリの町中をはなれて山に來て居りながら山を樂しむことを知らず，自然を研究して，これを味ふことを知らぬ人の意外に多いのには，全くおどろかざるを得ない。淺間高原は活火山淺間と，鬼押出しと，ツツジケ原をもつてゐるので，日本一の國立公園としても，十二分のネウチがあるばかりでなく，世界の自然公園としても，決してはづかしくないものである。飛行機の發達と共に地球は急速に小さくなり，わが日本帝國はアジヤの中心たるのみでなく，やがて世界の中心となるものと信じるが，さうなると，景色の美しい日本にあこがれて，世界の人が續々と見物に來るであらう。

その時は，日光と箱根，淺間高原と草津，那須と鹽原などは，ハイキングコースでなくて飛行機コースとして，まつ先にあげなければならぬから，これ等の地域の地質をはじめとして，自然物を一通り研究しておかなければ，外人に對して面目ない次第である。實を言へば，將來を待つまでもなく，今日すでに必要にせまられてゐるのである。かやうに考へて見ると，對内的にも對外的にも一時も早く研究に着手しなければならぬことを痛切に感じる次第であるが，幸に靑山子爵家の大原晴雄氏は，かねてから，この事を箱根土地會社に謀り，

千ケ瀧の避暑地の一部に自然公園を造り，また自然博物館を設立することの必要を說いて，社長堤氏を動かし，大いにその氣運を進めて居られた。私はその事を全く知らなかつたのであるが，たまたま昭和12年の夏，子爵家で大原氏に會つた時，千ケ瀧の自然研究の必要を力說した所，話はたちまち進んで，さつそくその年の夏から，まづ昆蟲を手始めに採集に取りかかることになり，この由を大原氏から會社に勸めて，いよいよ博物館設立に一步をふみ出すことゝなつた。よつて同年八月上旬岡崎は大原氏と昆蟲採集を始め，志賀卯助氏の助力を得て翌13年の夏にも採集を試みた。その際ついでながら，クモの採集をも試みたので，植村利夫君を煩はして，標本の鑑定をしてもらつた。次に揭げたものがそれである。この標本は，千ケ瀧箱根土地株式會社の經營にかゝる「淺間高原通俗博物館」に保存して，一般の觀覽に供し，淺間高原における生物研究の資料にする筈である。 (昭和14—3—17)

淺間高原通俗博物館クモ類標本目錄

(昭和14—3—1　植村利夫氏同定)

ヒメグモ科	Theridiidae	1 (genus)	2 (species)
サラグモ科	Linyphiidae	1	1
コガネグモ科	Argiopidae	4	6
キシダグモ科	Pisauridae	1	2
ドクグモ科	Lycosidae	1	1
タナグモ科	Agelenidae	1	1
カニグモ科	Thomisidae	3	3
フクログモ科	Clubionidae	1	1
ワシグモ科	Drassidae	1	1
9 科		14屬	18種

Theridiidae ヒメグモ科

1. *Theridion tepidariorum* C. L. Koch　　オホヒメグモ

13—8—14　研究所　♂♀

2. *Theridion* sp.　　ヒメグモ一種

13—8—10　研究所—峯ノ茶屋

Linyphiidae　サラグモ科

3. *Linyphia marginata* C. L. Koch　　サラグモ

13—8—10　研究所—峯ノ茶屋，　13—8—20　追分，
13—8—中旬　研究所附近（馬越茂雄君採集）

Argiopidae　コガネグモ科

4. *Araneus ventricosus* (L. Koch)　　オニグモ

13—8—10　峯ノ茶屋，13—8—20　追分

5. *Araneus scylla* (Karsch)　　ヤマシロオニグモ

13—8—20　追分，　13—8—21　研究所　ハナレ山（離山），
13—8—17　研究所，　13—8—17　南原—沓掛　13—8—17
研究所，　13—8—中旬　研究所附近（馬越茂雄君採集）

6. *Araneus scylloides* Bösenberg et Strand　　サツマノミダマシ

13—8—23 南輕井澤オシタテヤマ（押立山），13—8—20 追分，

7. *Argiope bruennichii* Scopoli　　ナガコガネグモ

13—8—16　追分，13—8—20　追分

8. *Meta doenizii* Bösenberg et Strand　　ドヨウグモ

13—8—13 千ガ瀧瀧ツボ附近，13—8—11　ツツジガ原，13—
8—17 南原—沓掛，13—8—21　ハナレ山

9. *Tetragnatha japonica* Bösenberg et Strand　　ヤサガタアシナガグモ

13—8—17　南原—沓掛

Pisauridae　キシダグモ科

10. *Dolomedes raptor* Bösenberg et Strand　　ハシリグモ

13—8—13　千ガ瀧瀧ツボ附近

11. *Dolomedes sulfureus* L. Koch　　イワウイロハシリグモ

13—8—17 碓氷峠見晴臺

Lycosidae ドクグモ科

12. *Lycosa laura* Karsch ハリゲドクグモ

13—8—14 研究所

Agelenidae タナグモ科

13. *Agelena limbata* Thorell クサグモ

13—8—10 研究所室内

Thomisidae カニグモ科

14. *Misumena tricuspidata* Fabricius ハナグモ

3—8—20 追分

15. *Oxytate striatipes* L. Koch ワカバグモ

13—8—20 追分

16. *Synaema globosa japonica* Karsch フノジグモ

Clubionidae フクログモ科

17. *Chiracanthium rubicundulum* Kishida エドコマチグモ

13—8—14 芹ガ澤, 13—8—23 南輕井澤オシタテ山 (押立山)

Drassidae ワシグモ科

18. *Yoshidaia typica* Kishida ヨシダグモ

13—8—20 追分

備考 1. 採集はすべて昭和13年8月に行つたものであるが，たゞ昆蟲採集のかたはら目にふれたものを集めたに過ぎない。

2. 「研究所」とあるのは，觀翠樓の附近の西崎舞踊研究所であつた建物を臨時に利用して，これを「淺間高原通俗博物館昆蟲研究所」としたので，それを指したものである。

3. 「研究所一峯ノ茶屋」とあるのは，上に述べた研究所から峯ノ茶屋に至るまでの間で採集したことを示したものである。